

教科書の七十〜七十一ページを読んで後あとの問いに答えよ。

語句・文法

1 次の語句の本文中での意味を答えよ。

- (1) ゆかし〔七十・4〕 〔 〕
- (2) あはれがる〔七十・8〕 〔 〕
- (3) いみじ〔七一・3〕 〔 〕

2 次の(1)〜(2)を現代語訳せよ。

- (1) げにおのづから慰みゆく。〔七十・2〕 〔 〕
- (2) まめまめしきものは、まさなかりなむ。〔七十・9〕 〔 〕

3 次の傍線部の「の」の用法を説明せよ。

- (1) 親の太秦にこもり給へるにも〔七十・5〕 〔 〕
- (2) 後の位も何にかはせむ。〔七十・14〕 〔 〕
- (3) いと清げなる僧の黄なる地の袈裟着たるが来て〔七一・3〕 〔 〕

内容の整理

次の空欄に、本文・脚注を参考にしながら適当な言葉を入れよ。

私の心を慰めようとする〔①〕 〔 〕は、『〔②〕 〔 〕』を求めて読ませてくれたが、その続きが読みたくて、太秦参籠の時もひたすら祈る。上京した〔③〕 〔 〕を訪ねた折、帰りに思いがけず〔④〕 〔 〕の全巻などを贈ってくれた。ひとりで一日中、ひたすら読み続け、夢に現れた僧が言った〔④〕 〔 〕を習おうともせず、あきれたことに自分も〔②〕 〔 〕の主人公を夢見るのであった。

読解

1 「異事なくこのことを申して」〔七十・6〕の「このこと」の内容は何か。その内容にあたる部分の初めと終わりの四字を抜き出せ。

「 _____ 」

2 「夢に：『法華経五の巻を疾く習へ。』と言ふ」〔七一・3〕とあるが、こういう夢を見たことから、作者のどのような心情がうかがえるか。次の中から適当なものを一つ選べ。

- ア 神仏が願いをかなえてくれたことに対する感謝。
- イ 『源氏物語』を全て手に入れられたことの喜び。
- ウ 物語ばかりに耽溺していることへの後ろめたさ。
- エ 物語と同様に仏典も読みたいという潜在的な願望。

「 _____ 」

3 「我はこのごろ…と思ひける心」〔七一・5〕とは、作者のどのような気持ちを表現したのか、説明せよ。

「 _____ 」

4 源氏物語を心ゆくまで読むことのできたうれしい気持ちが一番強く表現されている部分を、本文中から十字で抜き出せ。

「 _____ 」

発展

1 「まづいとはかなく、あさまし。」〔七一・7〕について、

(1) いつの時点での感想か。

「 _____ 」

(2) どのような感想か、説明せよ。

「 _____ 」